

福岡県北九州市（8月2日）

【人口】979,233人 【面積】487.89km² 【財政力指数】0.71

視察事項 「ごみ減量化について」

1 家庭ごみ収集制度見直しについて

ごみ有料化制度導入状況

平成10年7月 最初の有料指定袋導入

・資源化物（かん、びん、ペットボトル）は無料、レジ袋可

・家庭ごみ有料指定袋制導入 15円/45、12円/30、8円/20

平成18年7月 家庭ごみ収集制度の見直し

（手数料額改定、資源化物の有料化）

・家庭ごみ有料指定袋料金改定 50円/45、33円/30、22円/20

・資源化物（かん、びん、ペットボトル、プラ）有料指定袋 12円/25

・古紙集団資源回収奨励金の増額（H16.7月 先行実施）

2 見直しに至る経緯

平成10年7月の有料指定袋制度導入以降、約6%・2万トン/年の減量効果を維持していたが、排出量は平成15年度まで横ばいであった

1人1日あたりの家庭から出るごみ量が、全国平均より15%程度多い状況

北九州市（平成15年度）	約705グラム
全国平均（平成14年度）	約618グラム

全国平均は推計値（資料：環境省）

リサイクル可能な資源化物が家庭ごみとして捨てられている状況

「かん・びん・ペットボトル」の約30%、「紙パック・トレイ」の約90%が捨てられている。

さらに、家庭から出されているごみのうち20%が紙類（新聞・雑誌・段ボール）

減量化が可能

税の使途に不公平感があること

家庭ごみ有料指定袋は15円だが、処理（収集運搬・焼却・埋め立て）には約200円の経費がかかる。約185円は税金等でまかなわれている。

ごみ減量化にがんばっている人（1袋）

処理費用	200円
袋代	15円
税金等	185円

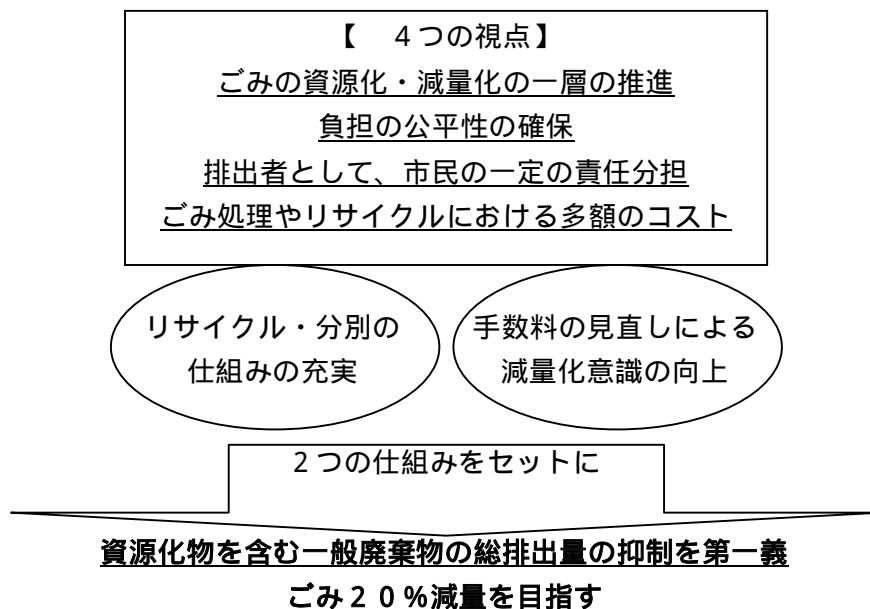
ごみを多く出す人（2袋）

処理費用	400円
袋代	30円
税金等	370円

リサイクルにもコストがかかること

「かん・びん・ペットボトル」を収集しリサイクルするには大袋1枚分で約90円かかっている。（全額税金等でまかなわれている）

3 家庭ごみ収集制度見直しの基本的考え方



4 家庭ごみ減量化等の実績

家庭ごみ 27.3%・約7万トン削減

1人1日あたり26%削減

資源化物は約2.9万トン・70%増

区 分	平成 15 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	対 15 年増減	
	(基準年)				
家庭系ごみ	258,306 ト	193,045 ト	187,707 ト	70,997 ト	27.3%
家庭ごみ(一般家庭)	253,216 ト	188,742 ト	184,343 ト	68,873 ト	27.2%
粗大ごみ	5,090 ト	4,303 ト	3,364 ト	1,726 ト	33.9%
推計人口	1,003,267 人	987,230 人	984,953 人	18,314 人	1.8%
1人1日あたり排出量	705 g	536 g	522 g	183 g	26.0%
資源化物	41,503 ト	71,454 ト	70,848 ト	29,345 ト	70.7%

資源化物...かん・びん・ペットボトル、紙パック・トレイ、古紙等の合計

5 家庭ごみ収集制度見直しの「情報公開」と「説明責任」

	時期・内容	回 数	参加人数
市民説明会	条例提出前(H17.5~11月)	515回	約15,600人
	条例提出後(H17.12~H18.6月)	861回	約30,700人
		1,376回	約46,300人
ごみ出しマナー アップ運動	市職員業務説明会(H18.6月)	複数回	約1,500人
	市民分別協力員事前説明(H18.6月)	1,500回 以上	市民協力員 11,776人
	ごみ出しマナーアップ運動(H18.7月)	2週間(10日)	延べ約10万人

【委員の感想】

通常の焼却炉とシャフト炉が混在する非常に興味深いケースである。焼却ごみを処理できる最終処分場があれば通常の焼却炉を選択し、それがなければシャフト炉を選択するという説明であった。

感心したのは、平成18年度にわずか3人1組、30チームによる説明会を、なんと6か月で1,376回、約46,300人に実施し、さらに、ごみ出しマナーアップ運動を開始し、延べ約10万人への説明を実施されたことです。

減量化により家庭ごみの不法投棄が増加しており、監視体制を強化し不法投棄を防止している。行政視察の結果、東広島市家庭ごみ収集制度の見直しについては、市民の意見を聞き慎重に対応すべきであると感じた。

ごみ減量作戦、20%減量目標、指定袋料金の値上げ、市民負担の公正、公平の理由付けの必要性を感じた。古紙等の回収について、団体はもちろんであるが、団体+自治体に奨励金を出していることについては学ぶところもある。回収してリサイクル費用が安価なものは、もっとしっかりと回収に力を入れるべきであると思う。例として、新聞、雑誌、アルミ、布等は、リサイクルの中間費用がかからないと思う。

家庭ごみ収集制度見直しの基本的な考え方として、ごみの資源化・減量化の一層の促進

負担の公平の確保 排出者として、市民の一定の責任分担（市民にやっていただく）ごみ処理やリサイクルにおける多額のコスト、の4つの視点で、リサイクル・分別の仕組みの充実、手数料の見直しによる減量意識の向上をセットに減量を目指された。

「情報公開」や「説明責任」ということで、徹底した市民説明会、そして市職員や市民分別協力員を配置して、ごみ出しマナーアップ運動をされた。努力が必要と感じた。

市民説明会が、議決7か月前 515回、7か月後 861回 計1,376回開かれ、その後、スタートした。なにごとも、用意が行われており、市民の質問・疑問に対するシミュレーションが万全であった。

古紙対策（7円/kg 奨励金の使途自由）が充実して、市民の協力が得られている。